

メディアセンターによる企画展示

第27回 慶應義塾図書館貴重書展示会

活字文化の真髄 日本の古活字版と西洋初期印刷本

内容：慶應義塾図書館の蔵書から15世紀後半～17世紀前半にかけてヨーロッパと日本で刊行された、今日に至る出版文化史の中でも最高水準の活字本を中心に展示。活字文化の真髄である東洋の古活字版、西洋の初期印刷本における活字の変化と多様性に光を当てる展示となった。なお、会場において講演会とギャラリートークを各2回開催し、各回とも好評を博した。（期間中の来場者は1,356名）

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善株式会社 協力：ミズノプリンティングミュージアム
会期：2015年10月7日（水）～13日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー
講演会：10月10日（土）

14：00～ 安形麻理（文学部准教授）「活版印刷術の黎明 — グーテンベルクとその周辺」

15：00～ 小秋元段（法政大学教授）「鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』の刊行と徳川家康・秀忠」

10月11日（日）

14：00～ 雪嶋宏一（早稲田大学教授）「ヴェネツィアからパリへー活字で見るルネサンス文化の広がり」

15：00～ 高橋 智（附属研究所斯道文庫教授）「活字印刷の重宝 — 古活字版漢籍について」

ギャラリートーク：

10月12日（月・祝）

14：00～ 高橋 智（附属研究所斯道文庫教授）

15：00～ 徳永聡子（文学部准教授）



講演会（高橋先生）



タブレットを駆使してのギャラリートーク
（徳永先生）



参考展示：グーテンベルク印刷機レプリカ
（ミズノプリンティングミュージアム蔵）